

外佐田古墳発掘調査報告

— 伊勢市二見町松下 —

2010. 3

三重県埋蔵文化財センター



古墳遠景（東上空から）



古墳全景（南から）



石室全景（西から）

はじめに

二見の地は、夫婦岩、二見浦などの風光明媚な景色が都でも古くから賞せられ、明治時代には日本で最初の公認海水浴場が開かれたところです。発掘調査を行った場所からも、広く伊勢湾を見渡すことができ、眼下を流れる五十鈴川派川では、繁殖のため海から溯上してきたエイの姿をみることもできました。

今回の発掘調査は、ふるさと農道の建設に伴って行われたもので、開発に伴う緊急調査です。伊勢と二見を結ぶこの道路の完成が、産業・観光の振興につながり、地域がより豊かになることが期待されます。しかしながら、一方で地域の歴史を伝える文化財が失われていくことは、非常に残念なことです。私ども三重県埋蔵文化財センターでは、開発と文化財保護の共存、適切な保護・保存をめざし、日々努力しております。その成果となります本報告書が、今後の文化財保護、地域像の構築のための一助となれば、望外の喜びと存じます。

最後になりましたが、発掘調査に際しまして地元の方々には多大なるご理解、ご協力をいただきました。厚くお礼を申し上げます。

平成22年3月

三重県埋蔵文化財センター
所長 河北 秀実

例 言

- 1 本書は、三重県伊勢市二見町松下に所在する外佐田（そとさた）古墳の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、平成20年度県営ふるさと農道建設事業にともなうもので、調査にかかる費用は三重県農水商工部が負担した。
- 3 発掘調査期間は平成20年6月13日から8月11日である。
- 4 発掘調査面積は、206㎡である。
- 5 発掘調査は、次の体制により実施した。
調査主体：三重県教育委員会
調査担当：三重県埋蔵文化財センター
主幹 田中久生
主査 竹田憲治
発掘調査作業受託 有限会社中浦土木
- 6 本書の作成業務は、三重県埋蔵文化財センター調査研究Ⅰ課及び活用支援課が行った。
- 7 本書の執筆・編集は竹田が行った。
- 8 本書に掲載した遺構の撮影は、発掘調査担当者が行い。遺物の撮影は田中が行った。
- 9 当発掘調査による図面・写真等の記録及び出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 10 調査にあたっては、山口誠一、折戸芳弘、伊勢市、伊勢市教育委員会、伊勢市松下区・江区ならびに地元各位の協力を得た。

凡 例

〈地図類〉

- 1 本書で使用した地図類は、国土地理院発行の1/25,000地形図、伊勢市都市計画図である。
- 2 挿図の方位は全て世界測地系・測地成果2000による座標北で示している。なお、磁針方位は西偏6°30′(平成9年)である

〈遺構類〉

- 3 土層図は、層の区分を実線で、調査区壁面および採録深度に相当する部分を一点鎖線で表現している。また、遺構面や層位の大区分となる層については、他の土層線よりも太い線で表現した。
- 4 土層図の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』(日本色研事業株式会社 1967年初版)を用いた。
- 5 当報告書での遺構は、当遺跡全体で通番としている。
- 6 遺構等の断面図で、平面図の相当位置に矢印があるものは、立面図となっている。

〈遺物類〉

- 7 当報告での遺物実測図類は実物の1/4を基本としている。それ以外の縮尺のものについては、その都度指示している。
- 8 遺物実測図は、当遺跡で通番としている。
- 9 遺物観察表は、以下の要領で記載している。
報告書No…挿図掲載番号である。
実測No…実測段階の登録番号である。
器種…遺物の器種を表す。
器形…遺物の器形を表す。
遺構No…遺物の出土した遺構や層名を記した。
計測値(cm)…遺物の各部の計測値を示す。口径は口縁部径、底径は底部径、器高は遺物の高さを示す。
欄内に記載された台は台部径、脚は脚部径を示す。なお、数値はそれぞれの部位の最大径であり、内法や実測段階の「接地点」ではない。
調整・技法の特徴…主な特徴を内面(内:・外面(外:))で示した。「A→B」はAの後にBが施されたことを示す。
胎土…小石等の混和材を除いた素地の緻密さを「密～粗」で区分した。
色調…その遺物の代表となる色調を記載した。表記は、前掲『新版標準土色帖』に拠る。
残存度…ある部位を12分割した際の残存度を示し、分子の数値のみを記した。6は約半分、全体が残っているものは完存と記した。口は口縁部、頸は頸部、底は底部、台は台部、脚は脚部、端は端部の各部位をそれぞれ示す。
特記事項…遺物の特徴となる事項を記した。

〈写真図版〉

- 10 写真図版の遺物番号は、報告書Noと対応している。
- 11 遺物の写真図版は、特に断らない限り縮尺不同である。

目 次

I 前言	(1)
II 位置と歴史的環境	(3)
III 遺構と遺物	(7)
IV 発掘調査のまとめ	(12)

挿図目次

第 1 図 調査区位置図	(1)
第 2 図 遺跡位置図	(4)
第 3 図 遺跡地形図	(8)
第 4 図 発掘調査前地形測量図	(9)
第 5 図 発掘調査後地形測量図	(9)
第 6 図 石室実測図	(10)
第 7 図 土層断面図	(10)
第 8 図 石室平面図 (基底部)	(11)
第 9 図 石室平面図 (石材撤去後)	(11)
第10図 遺物実測図	(11)

表目次

第 1 表 五十鈴川周辺の古墳	(5)
第 2 表 遺物観察表	(12)

写真図版目次

巻頭図版 1 古墳遠景／古墳全景	
巻頭図版 2 石室全景	
写真図版 1 調査前風景／石室 (立木伐採前)	(15)
写真図版 2 石室 (立木伐採後) ／調査中の石室	(17)
写真図版 3 石室崩落状況	(19)
写真図版 4 古墳全景	(21)
写真図版 5 石室近景／右側壁／左側壁	(23)
写真図版 6 石室基底部／石室完掘状況	(25)
写真図版 7 出土遺物	(27)

I 前 言

(1) 調査に至る経過

三重県教育委員会と三重県埋蔵文化財センターでは、国及び県にかかる各種公共事業に関連して、事業予定地内の文化財の確認と保護に努めている。

県営ふるさと農道松下地区事業地内に所在する外佐田古墳に関しては、平成11年度に分布調査を行い、事業地に横穴式石室らしい石積みが存在することを確認した。三重県教育委員会と三重県埋蔵文化財センターでは、その結果を三重県農林水産商工部農業基盤整備課（当時）に報告（平成12年3月3日付、教埋第487号）し、埋蔵文化財の保存のための協議を行った。その結果、次年度以降に石室の性格とその広がり进行を明らかにするための範囲確認調査を行い、その結果をもとに保護協議を行うことになった。

範囲確認調査は平成19年度に行った。この時点では石室は道路建設による掘削範囲から除外されていたため、石室に隣接する2つの丘陵頂部付近でトレンチ調査を行った。その結果、遺構は確認できな

かったが須恵器及び山茶碗が出土し、周辺に古墳等が存在する可能性が高いことが判明した（平成19年11月19日付、教埋第270号）。その結果をもとに、三重県埋蔵文化財センターでは、再度外佐田古墳の保護についての協議を行い、石室とその周辺が道路建設による掘削によって重大な影響を受ける恐れがあることから、記録による保存を行うことが適切であると判断し、平成20年度に記録保存のための発掘調査を行うことになった。

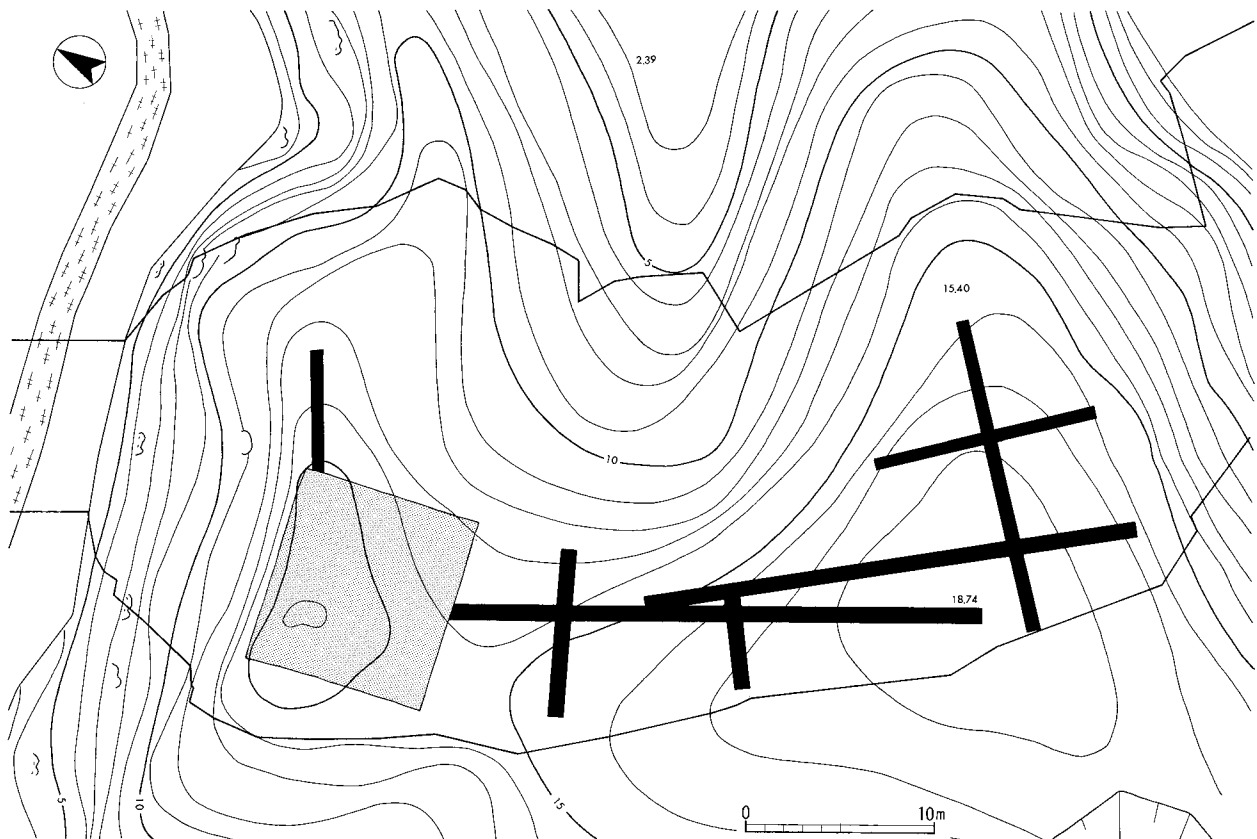
(2) 調査の方法

①発掘調査の体制

三重県埋蔵文化財センターでは、発掘調査の土工部門（土木作業、安全管理、調査員・作業員詰所などの仮設、測量）などを民間業者に委託している。今回の発掘調査も、土工部門を有限会社中浦土木に委託して発掘調査を行った。

②調査区の設定

発掘調査に際し、発掘調査対象範囲500㎡のうち、石室を中心に墳丘や小石室・土坑墓などが想定され



第1図 調査区位置図 (1:500)

る部分 156 m²に関しては面的な発掘調査（A区）を行い、それ以外の部分 344 m²に関してはトレンチ調査（B1～B3 トレンチ）を行った。A区に関しては補助的に 4 m × 4 m の小地区を設定した。

表土については、バックホウによる掘削を行い、石室の掘削と遺構検出、遺構掘削は手掘りで行った。石室の解体はバックホウにより石材を吊り上げ、その後手掘りで行った。

③記録

A 実測図

全体図 A区は調査前と調査後に平板による測量を行い、1/100の測量図を作成した。

B1～B3 トレンチは1/20の土層断面図を作成した。

個別遺構図 個別遺構のうち、横穴式石室に関しては、1/20の平面図、立面図、埋没状況の土層断面図を作成した。周溝に関しては、1/20の土層断面図を作成した。

遺物実測図 遺物実測は、三重県埋蔵文化財センター調査研究I課及び活用支援課が行った。

B 写真

全体写真 A区は調査前、調査後に4×5判、35mm判のモノクロフィルム、カラーポジフィルム、デジタルカメラでの撮影を行った。調査後には6×6判モノクロフィルム・カラーポジフィルム、デジタルカメラでラジコンヘリによる空中写真撮影を行った。

個別遺構写真 個別遺構に関しては、4×5判、35mm判のモノクロフィルム、カラーポジフィルム、デジタルカメラでの撮影を行った。

遺物写真 遺物写真は、4×5判モノクロフィルム・カラーポジフィルムでの撮影を行った。

(3) 調査の経過

発掘調査は平成20年6月から開始した。作業の経過は以下のとおりである。

- ・調査前地形測量 6月16日
- ・調査前写真撮影 6月18日
- ・表土掘削 6月25日
- ・遺構検出・掘削 6月26日～7月2日
- ・石室内掘削 6月26日～7月4日
- ・調査後写真撮影 7月7日
- ・調査後地形測量 7月10日
- ・空中写真撮影 7月17日
- ・現地説明会 7月19日
- ・石室解体・図化 7月22日～27日
- ・現地調査終了 8月1日

(4) 普及公開

発掘調査に関する情報は三重県埋蔵文化財センターホームページにて適宜公開した。また7月15日には県政記者クラブ及び伊勢市記者会にて、発掘調査成果と現地説明会の開催についての資料提供を行った。

現地説明会は7月19日午後に行い、見学者80名が参加した。同時に地元自治会・二見小学校には適宜、発掘調査成果の周知を行った。

(5) 文化財保護法による諸手続き

文化財保護法等にかかる諸通知は、以下により行っている。

- ・遺跡発見の届出 文化財保護法第97条第1項（県教育長宛）
平成20年3月24日付け 教埋第462号
- ・三重県文化財保護条例第48条第1項（県教育長宛）
平成20年5月12日付け 勢農環第3089号
- ・文化財保護法第99条第1項（県教育長宛）
平成20年6月19日付け 教埋124号
- ・遺失物法による文化財発見・届出通知（伊勢警察署長宛）
平成20年8月27日付け 教委第12-4508号

Ⅱ 位置と歴史的環境

(1) 地勢

伊勢市と南伊勢町との境付近の剣峠付近に源流をもつ五十鈴川は、伊勢神宮の内宮の神域を通り、島路川や朝熊川などと合流しながら北東に流れる。その途中、伊勢市鹿海町から朝熊町付近で北（以下、「五十鈴川」と東（以下、「五十鈴川派川」）に分流し、五十鈴川は勢田川と合流して大湊付近で、五十鈴川派川は二見町江付近で伊勢湾に注ぐ。

外佐田古墳は五十鈴川派川の右岸、標高15m程の丘陵上に立地する。所在地は伊勢市二見町松下字外佐田である。地目は山林である。

(2) 古墳

外佐田古墳の位置する五十鈴川流域は、古墳時代後期の横穴式石室を持つ古墳が集中する地域である。その分布、時期などについては、第2図及び第1表を参照されたい。

この地域では昭和末から平成初頭にかけて皇學館大学考古学研究会による遺跡の分布調査が行われており、古墳や遺物散布地がある程度把握され、検討されている^①。それによると五十鈴川流域では、①横穴式石室を持つ古墳が集中する。②それらの石室は袖が不明瞭である。③石材には蛇紋岩系千枚岩を用いたものが目立ち、石の積み方に共通性を持つ。④横穴式石室は6世紀中葉以降に導入される。⑤南山古墳や昼河古墳群等の横穴式木室を主体とする古墳が一定程度存在することが指摘されている。横穴式石室の導入時期については、やや降る可能性をもつものの、これらの指摘は五十鈴川流域の古墳に関する研究の基軸をなす成果である。

いくつかの古墳では、各種開発事業に伴う緊急発掘調査も行われている。鹿海町の南山古墳では、昭和54年に発掘調査が行われ、羨道部に石積を持つ横穴式木室と木棺直葬の主体部2基が確認された。古墳は6世紀中葉に造営され、まず横穴式木室（第1棺・第2棺）が造られ、6世紀中葉から後半に木棺直葬の主体部2基、ついで6世紀末から7世紀初頭に木室への追葬（第3棺）が行われたことが判明している^②。

同じく鹿海町の赤土山古墳群では、平成11年度に発掘調査が行われた。この古墳は過去に鹿形埴輪が出土したとして知られていたが、発掘調査の結果、古墳群は6世紀前半の2基からなり、1号墳埴丘に

は木棺直葬の主体部、周溝中に小石室、2号墳埴丘には箱式石棺の主体部があったことが確認された。

2号墳の周溝からは人物埴輪・馬形埴輪・家形埴輪が出土した^③。

朝熊町の昼河古墳群では、平成2年度と3年度に17基もの古墳の発掘調査が行われた。その結果、古墳群は6世紀初頭から7世紀後半に断続的に造営され、木棺直葬から横穴式木室あるいは横穴式石室への主体部の変化があることが確認された^④。

二見町溝口の五峰山2号墳では、平成4年度に発掘調査が行われ、横穴式石室が確認され、7世紀初頭から前半の遺物が出土している^⑤。

(3) 集落遺跡

古墳が濃密に分布するのに対し、集落遺跡はあまり確認されていない。二見町荘遺跡・荘北遺跡・三津遺跡・山田原遺跡や里畑遺跡などの海浜部の遺跡が目立つが、内陸に行くにしたがって集落遺跡は質・量ともにふるわなくなる。

(4) 祭祀場

古墳時代以降の五十鈴川流域において最大かつ最重要な祭祀場は、伊勢神宮の内宮である。その成立時期、成立時の大王家との関係については有力な説はあるものの、いまだ定説といえるものは示されていない^⑥。しかし内宮の神域内からは、多数の滑石製模造品の出土が報告されており、5世紀代にはすでに祭祀場として成立していたと指摘されている^⑦。



第2図 遺跡位置図 (1:50,000 国土地理院発行1:25,000「明野・二見・伊勢・鳥羽」より)

	古墳名	所在地	墳形	出土遺物・時期	立地	主体部	残存	備考	参考文献
	外佐田古墳	二見町松下	円墳		丘陵上	横穴式石室	発掘調査済		本報告
1	丸山古墳群1号墳	宇治館町字岩井田山	円墳	鉄製鏝・鉄鏃・玉類、土師器(高杯)・須恵器(杯身・蓋・短頸壺・同蓋・広口壺・提瓶)	丘陵上	横穴式石室		明治23年発掘	2
	丸山古墳群2号墳	宇治館町字岩井田山	円墳		丘陵上	横穴式石室		通称「ヨシツネ塚」	2
	丸山古墳群3号墳	宇治館町字岩井田山	円墳	鉄刀・鉄鏃・土師器(高杯)・須恵器(杯身・蓋・高杯・細頸壺・ハソウ・提瓶)、砥石	丘陵上	横穴式石室		大正12年発掘	2
	丸山古墳群4号墳	宇治館町字岩井田山	円墳		丘陵上	横穴式石室?	石材露出		2
2	丸山東古墳	北中村町字岩井田山	円墳		丘陵上	横穴式石室?			2
3	雨堤南古墳群1号墳	楠部町	円墳		丘陵上				2
	雨堤南古墳群2号墳	楠部町	円墳		丘陵上	横穴式石室?	石材露出		2
	雨堤南古墳群3号墳	楠部町	円墳		丘陵上				2
4	洞ヶ崎古墳群1号墳	北中村町字洞ヶ崎	円墳		丘陵上	横穴式石室?	石材露出		2
	洞ヶ崎古墳群2号墳	北中村町字洞ヶ崎	円墳		丘陵上	横穴式石室?	石材露出		2
5	雨堤古墳群1号墳	楠部町	不明		丘陵上				2
	雨堤古墳群2号墳	楠部町	円墳		丘陵上				2
	雨堤古墳群3号墳	楠部町	円墳		丘陵上				2
	雨堤古墳群4号墳	楠部町	円墳		丘陵上				2
6	狐塚古墳	楠部町	円墳		丘陵上	横穴式石室?			2
7	防山古墳	楠部町字防山	不明	土師器(高杯・直口壺)・須恵器(平瓶)	丘陵上				2
8	日所塚古墳	楠部町字日所塚	不明	土師器(高杯ほか)・須恵器(杯身・蓋・高杯・横瓶・ハソウ)・鉄刀	丘陵上	石棺			2
9	金鈴古墳	楠部町	不明		丘陵上				2
10	風呂山古墳群1号墳	楠部町字風呂山	不明	須恵器(杯、ハソウ、皮袋形提瓶):6c後半?	丘陵上	横穴式石室		1号墳か2号墳から埴輪など出土	2
	風呂山古墳群2号墳	楠部町字風呂山	不明	須恵器片、勾玉、管玉、小玉、鉄片	丘陵上				2
11	風呂山北古墳	楠部町字風呂山	円墳		丘陵上				2
12	貝吹山東古墳	楠部町字貝吹山	円墳		丘陵上				2
13	三座山古墳群1号墳	鹿海町字三座山	不明	直刀	丘陵上	横穴式石室?			2
	三座山古墳群2号墳	鹿海町字三座山	円墳		丘陵上				2
	三座山古墳群3号墳	鹿海町字三座山	円墳		丘陵上				2
	三座山古墳群4号墳	鹿海町字三座山	円墳		丘陵上				2
14	南山西古墳	鹿海町字南山	円墳		丘陵上				2
15	南山古墳	鹿海町字南山	円墳	第I主体(羨道部石積横穴式石室:6c中葉、6c末~7c初頭に追葬)、第II主体(木棺直葬:6c中葉)、第III主体(木棺直葬:6c後半)	丘陵上	羨道部石積横穴式木室⇒木棺直葬	発掘調査済		5
16	南山北古墳	鹿海町字南山	円墳		丘陵上				2
17	鹿海西古墳1号墳	鹿海町字北山	円墳		丘陵上				2
	鹿海西古墳2号墳	鹿海町字北山	円墳		丘陵上			中世墓?	2
18	狐ノ森古墳	鹿海町字狐ノ森	円墳?		丘陵上		墳丘破壊		2
19	西稻葉古墳	鹿海町字西稻葉	円墳	須恵器台杯直口壺	丘陵上		墳丘破壊		2
20	北山古墳群1号墳	鹿海町字北山	円墳		丘陵上	横穴式石室?			2
	北山古墳群2号墳	鹿海町字北山	円墳		丘陵上				2
21	前山古墳	鹿海町字前山	円墳	土師器甌	丘陵上	横穴式石室			2
22	赤土山古墳群1号墳	鹿海町字赤土山	方墳	土器小片	丘陵上	木棺直葬?		周溝内に小石室	6
	赤土山古墳群2号墳	鹿海町字赤土山	方墳	形象埴輪(家形、馬形、人物)、円筒埴輪、鉄剣	丘陵上	箱式石棺			6
23	屋河古墳群	朝熊町字屋河	円墳	I期:A4号墳(木棺直葬:6c初頭~前半)、A3号墳第II主体部(木棺直葬:6c前半)、B7号墳第II主体部(木棺直葬:6c前半)。II期:A3号墳第I主体部(木棺直葬:6c前半~中葉)、B7号墳第I主体部(木棺直葬:6c中葉)、C17号墳(甕棺墓:6c中葉)、A1号墳第I主体部(木棺直葬:二棺並列埋葬:6c中葉頃)、C8号墳・C9号墳?。II~III期:B5号墳(木棺直葬:6c中葉~後半)。III期:A1号墳第II主体部(木棺直葬:6c後半頃)、B6号墳(不明:6c後半)。IV期:C13号墳・C14号墳(横穴式木室:7c前半)。IV期かV期:C15号墳(横穴式石室:7c初頭~7c後半)。V期:A2号墳(横穴式木室:7c中葉~後半)、C11号墳(横穴式石室:7c後半)、C12号墳(羨道部石積横穴式木室:7c後半。不明:C10号墳・C16号墳(石組墓))	丘陵上	木棺直葬⇒横穴式木室・横穴式石室⇒羨道部石積横穴式木室	発掘調査済		2・3
24	朝熊1号墳	朝熊町	不明		丘陵上	不明			2

第1表 五十鈴川周辺の古墳

	古墳名	所在地	墳形	出土遺物・時期	立地	主体部	残存	備考	参考文献
25	コカ山古墳	二見町茶屋字西堂山	円墳	土師器(高杯)、須恵器(提瓶):6c中葉?	丘陵上	横穴式石室	墳丘破壊		1・2
26	中野北浦古墳群1号墳	二見町莊字中野北浦	円墳	土師器、須恵器	浜堤上	不明	墳丘破壊		1・2
	中野北浦古墳群2号墳	二見町莊字中野北浦	不明	土師器、須恵器(蓋・杯)	浜堤上	不明			2
	中野北浦古墳群3号墳	二見町莊字中野北浦	不明	土師器、須恵器(蓋):6c後半?	浜堤上	不明			2
27	神田古墳群1号墳	二見町三津字北浦	円墳	鉄製品(直刀片)	丘陵上	横穴式石室			1・2
	神田古墳群2号墳	二見町三津字北浦	不明	土師器、須恵器	丘陵上	不明	墳丘破壊		1・2
28	三津古墳群1号墳	二見町三津	不明	土師器(横瓶)、須恵器(杯身・平瓶・横瓶)、玉類(勾玉・管玉・切子玉)、金環:6c後半～末?	浜堤上	不明	墳丘破壊		1・2
	三津古墳群2号墳	二見町三津	不明	土師器(短頸壺)[混入?], 須恵器(ハソウ・横瓶):6c後半～末?	浜堤上	不明	墳丘破壊		1・2
29	山田原古墳群1号墳	二見町山田原	不明		浜堤上	不明	墳丘破壊		1・2
	山田原古墳群2号墳	二見町山田原	円墳	土師器、須恵器	浜堤上	不明	墳丘一部残存		1・2
	山田原古墳群3号墳	二見町山田原	円墳	土師器、須恵器(蓋・杯):6c後半?	浜堤上	不明	墳丘一部残存		1・2
	山田原古墳群4号墳	二見町山田原	不明		浜堤上	不明	墳丘破壊		1・2
	山田原古墳群5号墳	二見町山田原	不明		浜堤上	不明	墳丘破壊		1・2
30	北浦古墳	二見町三津字北浦	不明		丘陵上	横穴式石室			1・2
31	南浦古墳群1号墳	二見町三津字南浦	円墳	6c中葉～7c前半?	丘陵上	横穴式石室			1・2
	南浦古墳群2号墳	二見町三津字南浦	円墳		丘陵上	横穴式石室?	石材露出		1・2
	南浦古墳群3号墳	二見町三津字南浦	円墳		丘陵上	横穴式石室			1・2
32	新開山古墳群1号墳	二見町三津字新開山	円墳	6c中葉～7c前半?	丘陵上	横穴式石室		旧新開山2号墳	1・2
	新開山古墳群2号墳	二見町三津字新開山	円墳	6c中葉～7c前半?	丘陵上	横穴式石室		旧新開山3号墳	1・2
	新開山古墳群3号墳	二見町三津字新開山	円墳		丘陵上	不明		旧新開山4号墳	1・2
33	五峯山古墳群1号墳	二見町山田原	不明	須恵器片	丘陵上	横穴式石室?	墳丘破壊	旧山田原1号墳	1・2
	五峯山古墳群2号墳	二見町山田原	円墳	土師器(椀)、須恵器(ハソウ):6c末～7c初頭?	丘陵上	横穴式石室	発掘調査済	旧山田原東古墳	1・2・4
	五峯山古墳群3号墳	二見町溝口・山田原	不明	6c後半?	丘陵上	横穴式石室?	石材露出	旧溝口1号墳	1・2
34	丸山古墳	二見町溝口字丸山	円墳?	須恵器(高杯)	丘陵上	不明			1・2
35	許母利神社東方古墳	二見町松下字長瀬	円墳?		丘陵上	不明			2
36	里畑古墳	二見町松下字里畑	円墳	土師器、須恵器	微高地上	不明			1・2
	小浜古墳群1号墳	二見町松下字小浜	円墳		丘陵上	横穴式石室?	石材露出		1・2
	小浜古墳群2号墳	二見町松下字小浜	円墳		丘陵上	横穴式石室?	石材露出		1・2
	小浜古墳群3号墳	二見町松下字小浜	円墳		丘陵上	横穴式石室?	石材露出		1・2
	小浜古墳群4号墳	二見町松下字小浜	円墳		丘陵上	横穴式石室?	石材露出		1・2
	小浜古墳群5号墳	二見町松下字小浜	円墳		丘陵上	横穴式石室?	石材露出		1・2
	小浜古墳群6号墳	二見町松下字ヶ戸	円墳		丘陵上	不明			1・2
	小浜古墳群7号墳	二見町松下字ヶ戸	円墳		丘陵上	不明			1・2
	小浜古墳群8号墳	二見町松下字ヶ戸	円墳		丘陵上	不明			1・2
	小浜古墳群9号墳	二見町松下字ヶ戸	円墳		丘陵上	不明			1・2
	小浜古墳群10号墳	二見町松下字小浜	円墳		丘陵上	横穴式石室			1・2
	小浜古墳群11号墳	二見町松下字小浜	円墳		丘陵上	横穴式石室?	石材露出		1・2
	小浜古墳群12号墳	二見町松下字小浜	円墳		丘陵上	不明			1・2
38	松下古墳	二見町松下字柿ノ木・稲葉	不明		丘陵上	不明	墳丘破壊		1・2
39	稲葉古墳	二見町松下字稲葉	不明		丘陵上	不明			1・2
40	大江谷古墳群1号墳	二見町松下字小浜	円墳		丘陵上	横穴式石室?	石材露出		1・2
	大江谷古墳群2号墳	二見町松下字大江谷	円墳		丘陵上	横穴式石室?	石材露出		1・2
41	鳥取古墳群1号墳	二見町松下字鳥取	不明	鉄製品(直刀)	丘陵上	横穴式石室	墳丘破壊		1・2
	鳥取古墳群2号墳	二見町松下字鳥取	円墳?	須恵器(蓋・長頸壺・ハソウ・提瓶):7c?	丘陵上	横穴式石室	墳丘破壊		1・2
	鳥取古墳群3号墳	二見町松下字鳥取	円墳?	土錘:7c?	丘陵上	不明	墳丘破壊		1・2
	鳥取古墳群4号墳	二見町松下字鳥取	円墳?	土師器片、須恵器(ハソウ):7c?	丘陵上	不明	墳丘破壊		1・2
	鳥取古墳群5号墳	二見町松下字鳥取	円墳?	7c?	丘陵上	不明	墳丘破壊		1・2
	鳥取古墳群6号墳	二見町松下字鳥取	円墳?	7c?	丘陵上	不明	墳丘破壊		1・2
	鳥取古墳群7号墳	二見町松下字鳥取	円墳	7c?	丘陵上	横穴式石室?	石材露出		1・2
	鳥取古墳群8号墳	二見町松下字鳥取	円墳	7c?	丘陵上	横穴式石室			1・2
	鳥取古墳群9号墳	二見町松下字鳥取	円墳?	須恵器(蓋)、埴輪?:7c?	丘陵上	不明	墳丘破壊		1・2

【参考文献】

- 『南山古墳発掘調査報告』(伊勢市教育委員会、1982年)
『二見町の遺跡と遺物』(皇學館大学考古学研究会、1986年)
『伊勢市とその周辺古墳文化』(皇學館大学考古学研究会、1992年)
『屋河古墳群』(伊勢市教育委員会、1993年)
現地説明会資料『赤土山古墳群』(伊勢市教育委員会、1999年)
『安養寺跡・豆石山中世墓群・豆石山経塚群・五峰山2号墳』(二見町教育委員会、2004年)

Ⅲ 遺構と遺物

(1) 位置

丘陵頂部から4 m程下がった標高約15 mの尾根上にある。古墳の北で尾根は再び高くなっており、古墳は二つの頂部の間の鞍部に立地する。

(2) 墳丘

調査前には平坦面の存在は認識できたものの、墳丘は確認できなかった。平坦面での遺構検出中に石室の東から南にかけて、墳丘の盛土らしいにぶい橙色土の広がりを確認したので石室調査終了後にその部分を断ち割り、石室南側で約40cm、東側で約20cmの厚さの盛土を確認した。石室北側・西側では盛土は確認できなかった。すでに流失したものと思われる。

石室の東で長さ5 m、幅90cm、深さ15cm程の緩やかに弧を描く、浅い周溝を確認した。また、石室の西でも浅い溝を確認した。北側は周溝としては明瞭でないが、石室北西側でも等高線の乱れが観察できたので、一応周溝と考えた。

これらのことから古墳は径約10 mの円墳であったと考えられる。

(3) 石室

南西に開口する。天井石などの上半部や羨道部は既に失われており、玄室側壁と奥壁が残存していた。

①奥壁・側壁

奥壁部の幅は約1.5 m、残存高は床面から約1.0 mである。5段程の石積が残っていた。幅110cm、厚さ20cm、奥行き60cm程の扁平な緑泥片岩を積み上げている。北隅の持ち送りは明瞭であるが、南隅ではそれほど明瞭ではない。

左側壁は長さ約2.4 m、5～6段程の石積が残存していた。石材は緑泥片岩で奥壁と比べるとひとまわり小さな石材が使われている。玄門付近で石材の抜き穴を確認した。抜き穴は北に張り出しており、この部分が玄門になる可能性がある。

右側壁は長さ約1.3 m、5段程の石積が残存していた。石材は奥壁や左側壁と同様であるが、奥壁や左側壁と比べると小ぶりの石が目立つ。遺存している側壁に続く形で抜き穴を確認した。また、奥壁から3 m程のところを基底部と考えられる石材を確認した。

残存する壁と抜き穴から、玄室長約2.5 m、玄室幅約1.5 m、全長4.5 m以上の左片袖式の石室が

想定できる。

②床面

玄室内の埋土を除去すると、厚さ8 cm程の黄橙色の硬化した土の広がりが見られた。この土の上面が石室の床面と考えられる。また玄室の北東隅部には扁平で小ぶりの緑泥片岩が置かれていた。床面直上の埋土及び床面の土の篩掛けを行ったが、玉類などは出土しなかった。

(4) 出土遺物

出土遺物はほぼすべてが7世紀前後のものである。1～9は古墳に伴うもの、10・11は後世の混入物と思われる。遺物の多くが石室内ではなく表土や墳丘の崩落土から出土している。

①土師器

椀(1) 墳丘崩落土から出土した。体部は丸く、深さがある。体部が磨耗しているため調整は不明瞭である。

甕(2) 表土、墳丘崩落土、石室埋土から出土した破片が接合できた。頸部の内面が肥厚する。

②須恵器

須恵器のうち、杯蓋や杯身の天井部・底部の調整はすべてヘラ切り後未調整である。

杯蓋(3・4) 3は石室埋土から出土した。口径がやや大きい。4は表土から出土した。

杯身(5～7) いずれも立ち上りが低く口縁端部が尖るように終わる。5は墳丘崩落土から出土した。口径がやや小さい。6は表土から出土した。5・7と比べると口径が大きい。7は表土と周溝から出土した破片が接合できた。底部外面に自然釉がかかる。

高杯(8) 石室内埋土から出土した無蓋の高杯。杯部の外面に段がある。

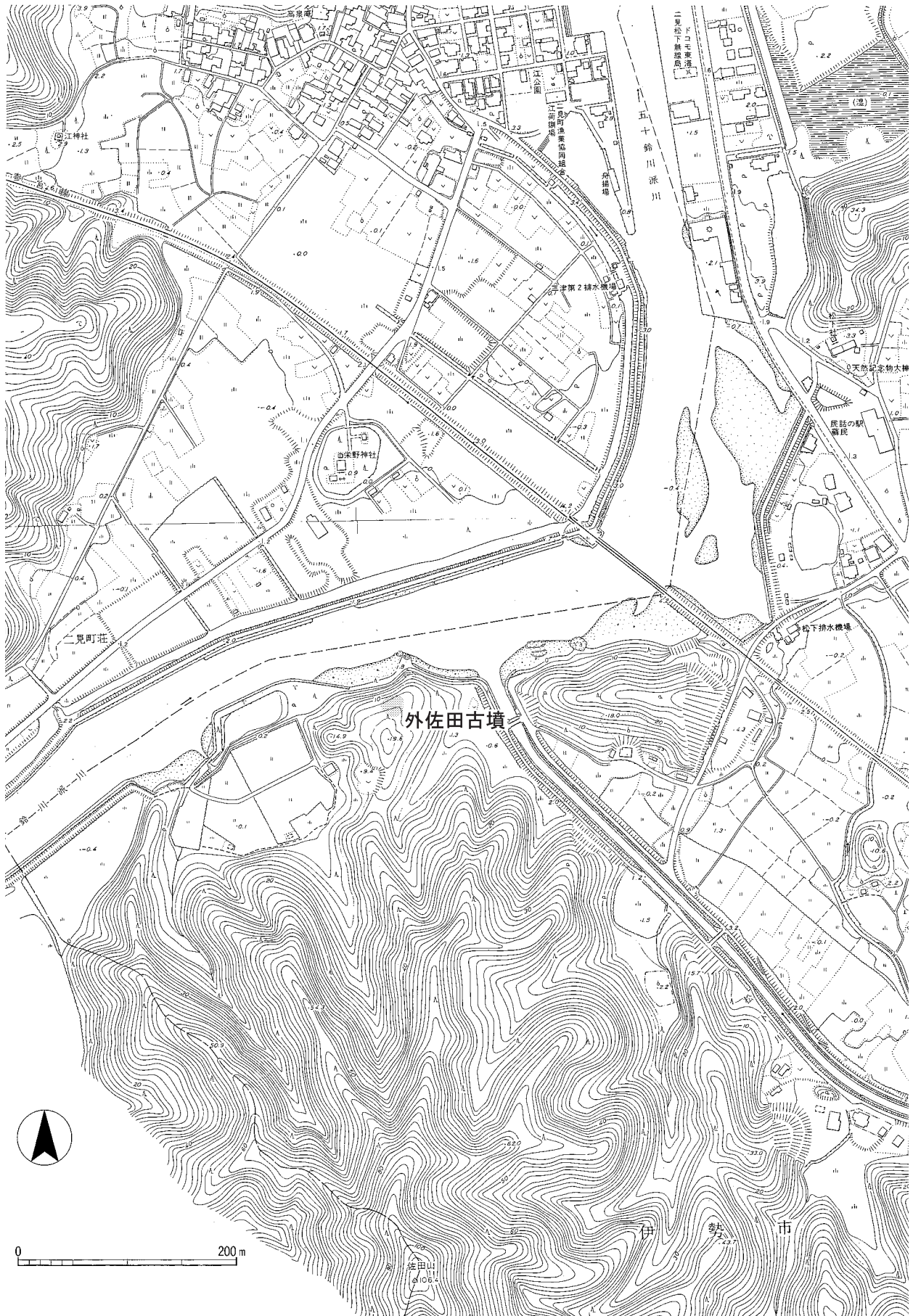
横瓶(9) 表土、墳丘崩落土、石室内埋土から出土した破片が接合できた。

このほか、図示しなかったが土師器甕の体部(2と同一個体の可能性あり)、須恵器杯身・杯蓋・高杯・甕の小片が出土した。

③その他

山茶椀(10) 範囲確認調査で出土した。渥美型第4型式の山茶椀⁸⁾で、12世紀頃の所産とみられる。付近に経塚などがあった可能性がある。

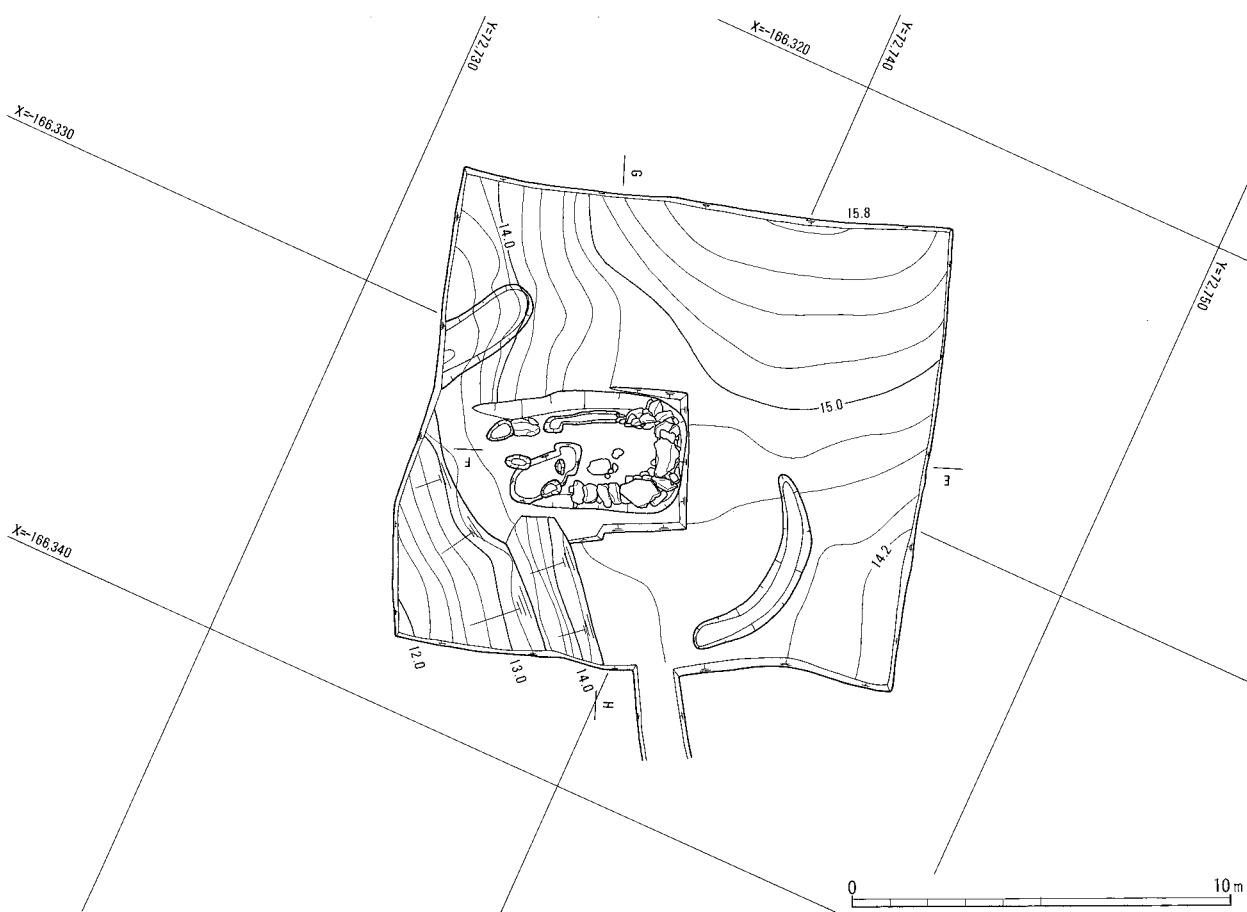
銃弾(11) 日本陸軍が使用していた12.7mm機関銃の弾丸⁹⁾である。



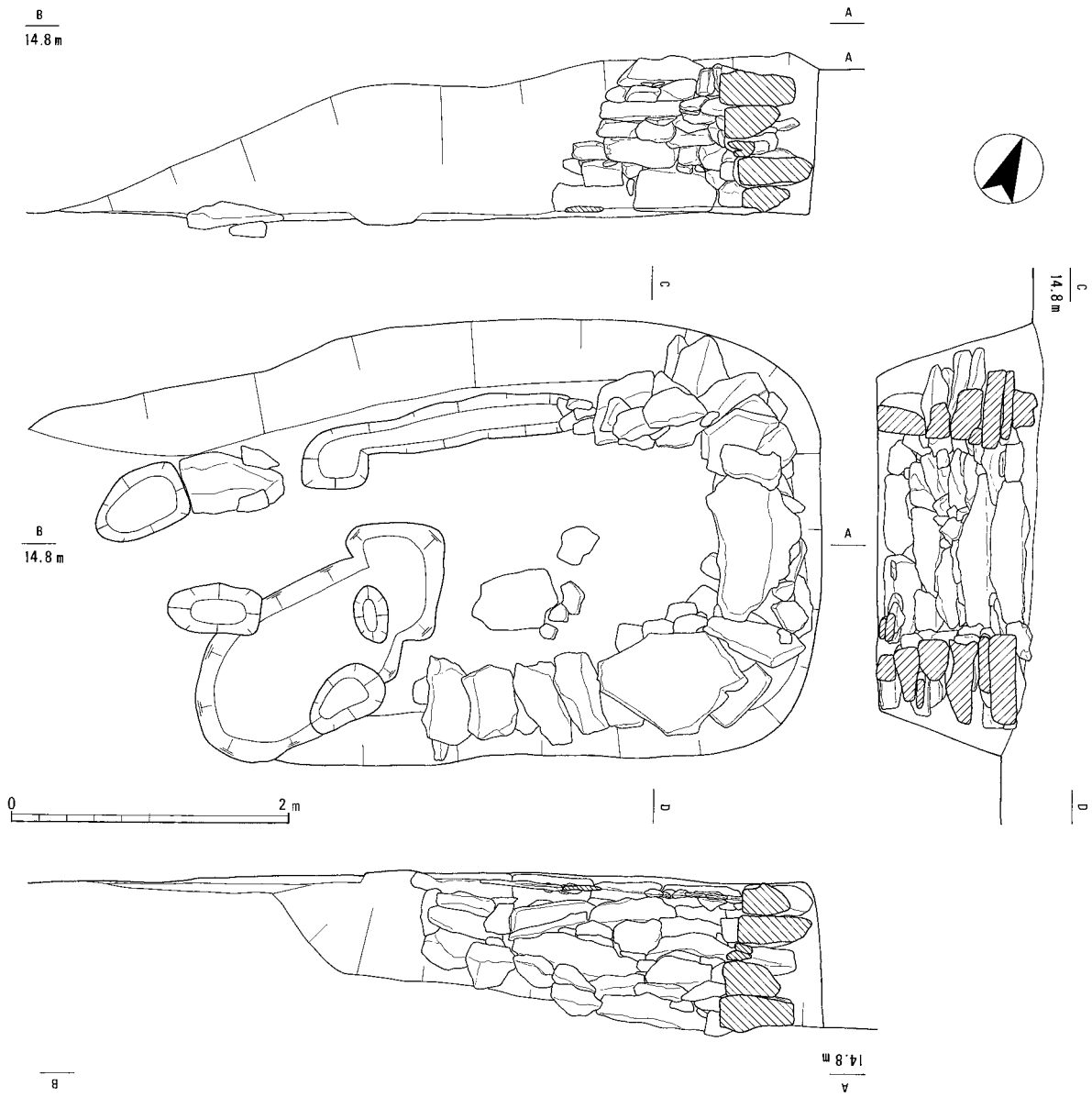
第3図 遺跡地形図 (1:5,000)



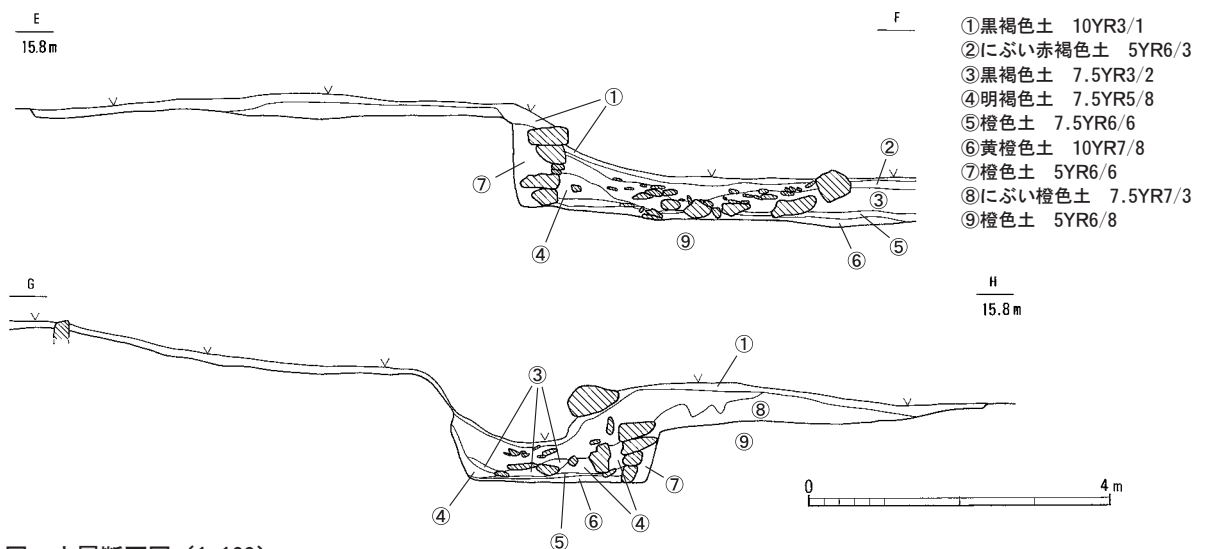
第4図 発掘調査前地形測量図 (1:200)



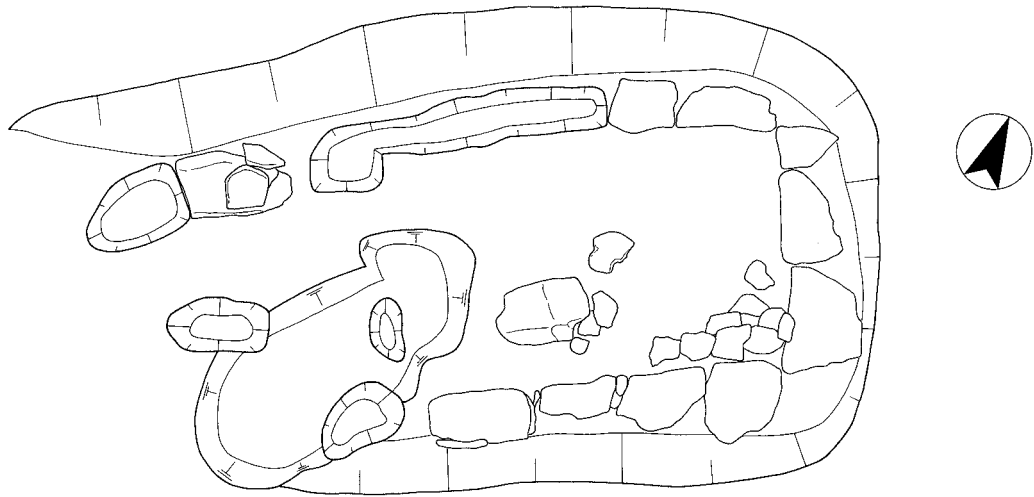
第5図 発掘調査後地形測量図 (1:200)



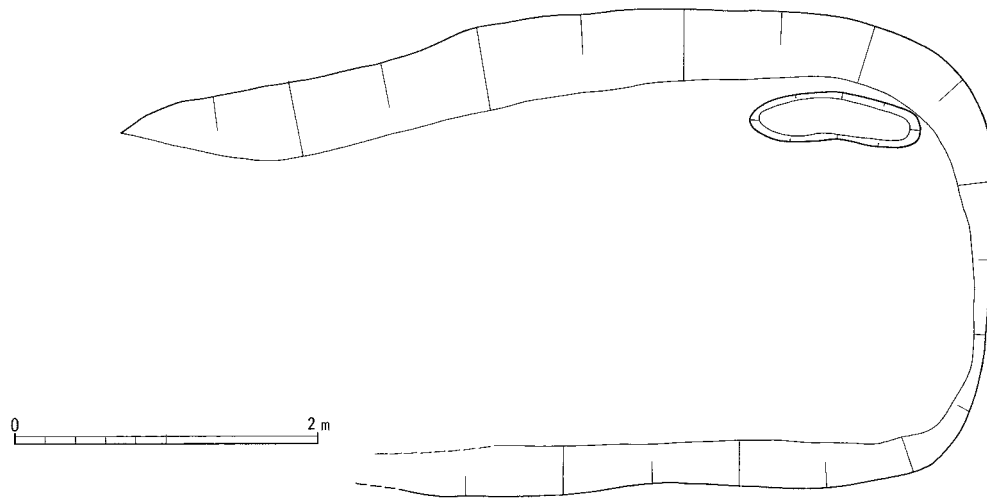
第6図 石室実測図 (1:50)



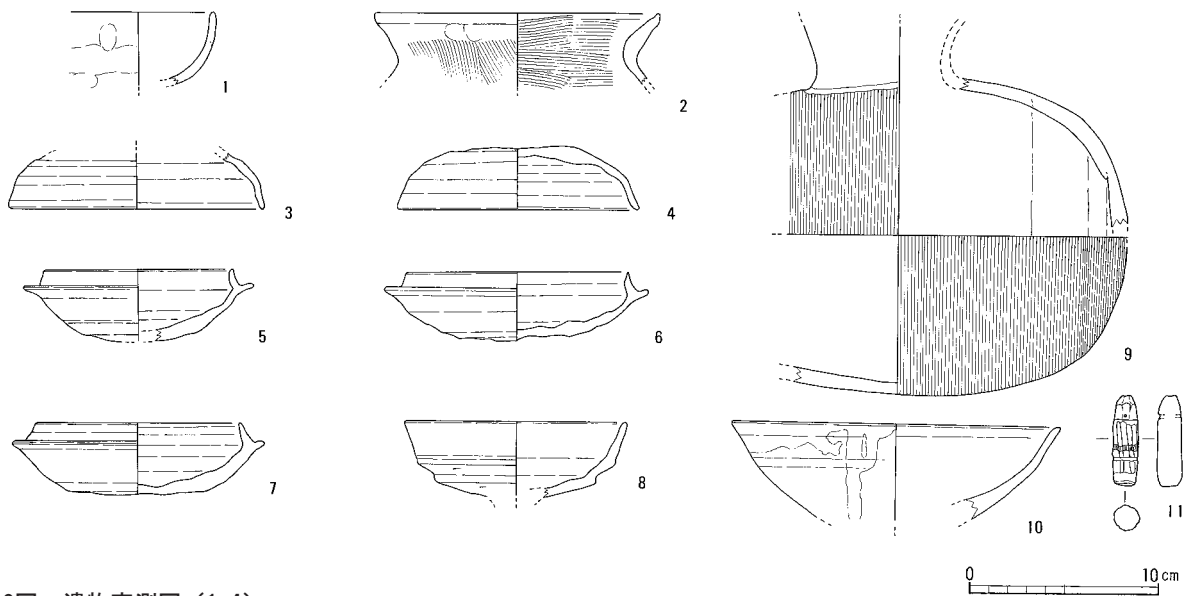
第7図 土層断面図 (1:100)



第8図 石室平面図（基底石、1:50）



第9図 石室平面図（石材撤去後、1:50）



第10図 遺物実測図（1:4）

IV 発掘調査のまとめ

外佐田古墳の発掘調査では、横穴式石室を持つ径約10mの円墳1基を確認した。発掘調査でのBトレンチ、それに先立つ範囲確認調査の成果も含めると、同一丘陵上には他の古墳は存在せず、単独で営まれたものと考えられる。

過去の分布調査及び発掘調査では、単独で存在する古墳は少なく、「古墳群」をなすか、他の古墳が近接するか、あるいは複数の主体部をもつものが多い。

外佐田古墳からの出土遺物もほぼすべてが7世紀前後の限られた時期のもので、石室の使用時期もそれほど長くはないと思われる。

五十鈴川流域で発掘調査が行われた古墳の多くでは、6世紀前半から中葉に造営が始まっている。これらの成果と外佐田古墳の発掘調査成果をあわせると、外佐田古墳の被葬者は6世紀後半代に勢力を伸ばした新興有力者層と考えられよう。既存の古墳があまりない五十鈴川派川下流の右岸に造営されていることも、このことを示唆するのかもしれない。

しかし、その勢力は次世代に受継がれることなく、7世紀中葉以降には衰退したものである。

註

- ① 皇學館大学考古学研究会『五十鈴川流域の遺跡』（1980年）、『二見町の遺跡と遺物』（1986年）、『伊勢市とその周辺の古墳文化』（1992年）、岩中淳之「古墳群周辺の歴史的環境」（『星河古墳群』（伊勢市教育委員会、1993年）
- ② 『南山古墳発掘調査報告』（伊勢市教育委員会、1982年）
- ③ 現地説明会資料『赤土山古墳群』（伊勢市教育委員会、1999年）および古川毅氏のご教示による。
- ④ 『星河古墳群』（伊勢市教育委員会、1993年）
- ⑤ 『安養寺跡・豆石山中世墓群・豆石山経塚群・五峰山2号墳』（二見町教育委員会、2004年）
- ⑥ 例えば、田中卓『伊勢神宮の創祀と発展』（国書刊行会）、岡田精司「古代王権と太陽神」（『古代王権の祭祀と神話』塙書房、1970年に所収）、直木孝次郎「天照大神と伊勢神宮の起源」（『日本古代の氏族と天皇』塙書房、1964年の所収）、筑紫申真『アマテラスの誕生』（秀英出版、1971年）、田村圓澄『伊勢神宮の成立』（吉川弘文館、1996年）などがある。
- ⑦ 穂積裕昌「三重の祭祀遺跡—伊勢神宮への道—」（『第12回春日井シンポジウム資料集』2004年）
- ⑧ 藤澤良祐「山茶碗研究の現状と課題」（『研究紀要』第3号、三重県埋蔵文化財センター、1994年）
- ⑨ 斎宮歴史博物館山本達也氏の御教示を得た。

報告書No.	実測No.	器種	器形	出土位置・遺構No.	計測値(cm)			調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	特記事項
					口径	器高	その他						
1	002-05	土師器	椀	墳丘崩落土				外:ナデ→オサエ 内:工具によるナデ	やや密		外:にぶい黄橙 10YR7/4 内:黄橙 10YR8/6	1/12	
2	001-01	土師器	甕	表土・墳丘崩落土・ 石室内を接合	15.0	—		外:体部タテハケ(8本/1cm)→口縁 ヨコナデ 内:体部斜ハケ(7本/1cm)→口縁 端部ヨコナデ	密 (微砂粒含む)	良	にぶい黄橙色 10YR6/4	2/12	
3	002-01	須恵器	杯蓋	石室内	14.5			ロクロナデ	密	良	外:灰色 5Y5/1 内:灰白色 2.5Y7/1	3/12	
4	001-03	須恵器	杯蓋	表土	12.7	3.4		外:ロクロナデ→天井部ロクロナデ 内:ロクロナデ	密 (~2mmの 砂粒)	良	外:褐灰色 10YR5/1 内:褐灰色 10YR6/1		
5	002-02	須恵器	杯身	墳丘崩落土	10.0	(推)3.8		外:ロクロナデ→天井部ロクロナデ →ヘラ切り後ナデ 内:ロクロナデ	密	良	暗灰黄色 2.5Y5/2	3/12	
6	001-04	須恵器	杯身	表土	11.7	3.6	底径5.8	外:ロクロナデ→天井部ロクロナデ →ヘラ切り後ナデ 内:ロクロナデ	密 (~4mmの 砂粒・小石 を含む)	良	灰黄色10YR5/2	口縁3/12 体部6/12	
7	001-02	須恵器	杯身	表土・周溝を接合	10.8	3.8	底径7.4	ロクロナデ。外面に自然釉付着	密	良	素地:にぶい黄橙 10YR7/3 施釉:暗オリーブ	2/12	
8	002-03	須恵器	高杯	石室埋土C区	11.9			外:ロクロナデ→天井部ロクロナデ 内:ロクロナデ	密	良	外:灰色 7.5Y5/1 内:灰黄色 2.5Y7/2	4/12	
9	003-01	須恵器	横瓶	表土・墳丘崩落土・ 石室D区を接合	頸部7.8	体部17.0		外:カキメ 内:ロクロナデ	密 (~1mmの 砂粒含む)	良	灰色5Y4/1	6/12	
10	002-04	陶器	山茶碗	範囲確認調査	17.2			ロクロナデ。施釉。外面に垂れ	密	良	外:灰黄褐色 10YR5/2 内:にぶい黄橙色 10YR7/2	体部4/12	
11	002-06	鉄製品	機関銃弾	C3包含層	1.3	4.8	重さ34.1g					完形	縦に7本の 条痕

第2表 遺物観察表

写真図版



調査前風景（南から）



石室（立木伐採前、西から）



石室（立木伐採後、西から）



調査中の石室（西から）



石室崩落状況（西から）



古墳全景（上空から、写真上が東）



石室近景（西から）



右側壁



左側壁



石室基底部（西から）



石室完掘状況（西から）



報告書抄録

ふりがな	そとさたこふんはくつちょうさほうこく							
書名	外佐田古墳発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財報告							
シリーズ番号	311							
編著者名	竹田憲治・田中久生							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL0596-52-1732							
発行年月日	西暦2010年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
そとさたこふん	いせしふたみちようまつした							
外佐田古墳	伊勢市二見町松下	24203	b83	34° 29' 53"	136° 47' 32"	20080613 ～ 20080811	206m ²	県営ふるさと農道建設事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
外佐田古墳	古墳	古墳時代	横穴式石室	土師器・須恵器		遺物出土量 4箱・2.8kg		
要約								
五十鈴川河口近くの丘陵上に立地する横穴式石室を持つ古墳。築造時期は7世紀初頭ごろ。								

三重県埋蔵文化財調査報告 3 1 1

外佐田古墳発掘調査報告

2 0 1 0 年 3 月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター

印 刷 光出版印刷株式会社
